

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7206
2. 授業担当教員	金 貞任		
4. 授業形態	発表	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>日本では、2025年に団塊世代全員が75歳以上となり、医療と介護の需要の急増と、2030年以降から多死時代を迎えることが予想されている。そのような状況の中で、医療と介護が必要になっても高齢者が望む場所で自分らしい暮らしができるよう、医療・介護・介護予防・生活支援などが包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みが進められている。高齢者に関するアプローチは、社会福祉の観点からニーズの発見と解決要因を把握する場合、社会階層とジェンダーなどによって異なっている点に注目し、学際的なアプローチの視点が必要である。</p> <p>そこで本講義では、社会福祉の学際的アプローチの観点から、高齢者の医療・介護・介護予防・生活支援などに着目し、分析と議論、問題解決について検討する。その際には、国際比較分析の観点から、メリットとデメリットを発見し、高齢者福祉の将来像を描くことができるように努める。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の観点から、高齢者の医療・介護・介護予防・生活支援等が包括的に確保される地域包括ケアシステムの観点から検討する意義とは何かを明らかにする。</li> <li>2. 介護保険制度、特に地域包括支援センターと地域密着型サービスの問題点と有効性について検討する。</li> <li>3. 高齢者を取り巻く環境について、社会的ネットワーク・サポートの問題点と有効性について検討する。</li> <li>4. 高齢者の生活について、北欧、東アジア諸国と比較分析する意義を吟味する。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b>  授業中に論文や文献などを提示する。  日本老年社会学会『老年社会科学誌』2011～2016。  Kunio Ishihara and Rokuro Tabuchi. 2012. Changing Families in Northeast Asia-Comparative analysis of China, Korea, and Japan. Sophia University Press.  Sugar JA, Riekse RJ, et al. 2014. Introduction to AGING-A positive, Interdisciplinary Approach. Springer Publishing Company.  金貞任『高齢社会と家族介護の変容：日韓比較研究』法政大学出版、2003。  新川敏光編『福祉レジーム』ミネルヴァ書房、2015。  松田亮三・鎮目真人『社会保障の公私ミックス再論』2016。  森川美絵『介護はいかにして労働となったか』ミネルヴァ書房、2015。</p> <p><b>【参考書】</b>  増田雅信・金貞任、『アジアの社会保障』法律文化社、2015。  稲葉照英ほか『日本の家族』東京大学出版会、2016。  日本家族社会学会 各年度『家族社会学雑誌』  白波瀬佐和子『少子高齢社会のみえない格差』東京大学出版会、2005。  Robert B. Hudson. The New Politics of Old Age Policy. 2010.  John R. Pratt. Long-Term Care: Managing Across the Continuum. Third edition. 2010.  ※ 講義を進行しながら、適宜必要な文献を紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・レジュメ作成と発表 ・論文発表 ○評定の方法 発表 60%、レポート作成 40%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者福祉政策と高齢者を取り巻く環境について、受講生独自の思考枠組みを模索する。</li> <li>2. 国際的視点を取り入れ、比較分析のメリットを活かせるように努める。</li> <li>3. 高齢者に関連する理論に基づき実践の効果を検証する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容	<b>【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】</b>		
1～5. テーマ	少子高齢社会の社会階層と結婚、性別役割分業		
	<p><b>【学習の目標】</b> 少子高齢社会の社会階層と結婚、性別役割分業についてレビューし、本研究のオリジナリティーと問題点を発見する。  <b>【学習の内容】</b> 1. 社会階層と性別役割分業の概念の妥当性について議論する。  2. ジェンダーと社会階層の問題とは何かについて検討する。  3. 未婚化・晩婚化の関連要因と解決策を発見する。  4. 社会階層とジェンダーに関する研究の実態と課題を学習する。  <b>【キーワード】</b> 少子高齢社会、社会階層、ジェンダー、性別役割分業  <b>【学習の課題】</b> 学習の内容の1～4について、オリジナリティーと問題点を発見しながらそれぞれの内容について研究を深める。  <b>【参考文献】</b> 上記10で挙げた教科書・参考書  <b>【学習する上での留意点】</b> 少子高齢社会が及ぼす影響に注目しながら整理することが重要である。</p>		
6～10. テーマ	少子高齢化の中の成人未婚子、世代間支援、社会経済的格差、少子高齢社会の味方		
	<p><b>【学習の目標】</b> 高齢者を取り巻く成人未婚子、世代間支援と社会格差についてレビューし、どのような福祉政策が有効であるか検討する。  <b>【学習の内容】</b> 1. 老親と同居する成人未婚子の社会格差の現状と援助方法について検討する。  2. 老親と既婚子との相互援助関係の現状と規定因は何かを検討する。  3. 高齢者世代と若年者世代との所得格差と規定因を検討する。</p>		

	<p>4. 高齢者の性別による世代間支援のメカニズムを発見し、どのような福祉政策が有効であるかを検討する。</p> <p>【キーワード】成人未婚子、世代間支援、社会経済的格差、老親</p> <p>【学習の課題】学習の内容の1～4について、規定因と本研究の問題点とは何かを確認しながら論文を購読する。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】少子・高齢社会では、世代間格差を無くすために有効な社会保障政策とは何かを考えることが重要である。</p>
11～15.テーマ	要介護高齢者のケア、インフォーマルケアとフォーマルケア
	<p>【学習の目標】要介護高齢者のケア、インフォーマルケアとフォーマルケアについてレビューし、本研究のオリジナルティと問題点を発見する。</p> <p>【学習の内容】1. 入所施設と在宅における要介護高齢者ケアの現状と問題点を発見する。 2. 重度要介護高齢者が在宅でケアを受けるためには、どのような方策が必要であるかを検討する。 3. インフォーマルケアとフォーマルケアについてレビューし、それぞれの意義と問題点を発見し、介護の質を高めるためには、どのような基準が必要であるかを発見する。</p> <p>【キーワード】要介護高齢者ケア、在宅介護、施設入所、インフォーマルケア、フォーマルケア</p> <p>【学習の課題】学習の内容の1～3について、先行研究を批判的に検討するように努める。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】要介護高齢者介護について、公的・私的介護の連携はどのようにするか、どうあるべきかについて発見する。</p>
16～20.テーマ	高齢者の生きがい、抑うつ、転倒、エイジズム、社会関係の非親族の構造
	<p>【学習の目標】地域在住高齢者の生きがい、エイジズム、抑うつ、転倒等の脅威について、それぞれの研究の規定因と問題点を発見する。</p> <p>【学習の内容】1. 高齢者の生きがいについてレビューし、生きがい構造の妥当性と生きがいの有効性について検討する。 2. 高齢者の抑うつ、転倒の規定因を検討し、それぞれの先行研究のオリジナルティと問題点について議論する。 3. 高齢期の非親族の構造に関して、本研究の意義と問題点を発見する。 4. エイジズムに関連する研究をレビューし、エイジズム研究の意義と問題点とは何かについて議論する。</p> <p>【キーワード】高齢者、生きがい、抑うつ、転倒、エイジズム、社会関係、非親族</p> <p>【学習の課題】学習の内容の1～4について、問題点を発見しながらそれぞれの内容について検討する。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】定年退職後の第2の人生の設計、生きがいの維持や発見のために、何が必要であるか等に注目しながら論文を購読する。</p>
21～25.テーマ	Changing Demography and Families in Northeast Asia, Parent-Child Proximity, Living with Parent or Parents-in-law
	<p>【学習の目標】Changing Demography and Families in Northeast Asia, Parent-Child Proximity, Living with Parent or Parents-in-law の現状を明らかにし、それぞれに関連する要因を発見する。なお、これらの研究の問題点を発見する。</p> <p>【学習の内容】1. Changing Demography and Families in Northeast Asia をレビューする。特に、東北アジアの家族の変化と、どのような問題を抱えているかを示す。 2. Parent-child Proximity and its Determinants をレビューする。特に、親と子どもの Proximity に関する研究が必要な理由、関連要因を示す。 3. Living with parents or parents-in-law in East Asia をレビューする。既婚子の親と義理親の同居の現状、同居の規定要因を示す。</p> <p>【キーワード】Parents and Parents-in-law, Proximity, Living with parents</p> <p>【学習の課題】学習の内容の1～3について、問題点を発見しながらそれぞれの内容について研究を深める。</p> <p>【学習する上での留意点】東アジアにおける家族の変容に関する論文を多読する。</p>
26～30.テーマ	Family Contacts with Parents and Parents-in-law, Pattern of Contact, Financial Supports to Parents and Parents-in-law
	<p>【学習の目標】Family Contacts with Parents and Parents-in-law, Pattern of Contact, Financial Supports to Parents and Parents-in-law の現状を明らかにし、それぞれに関連する要因を発見する。なお、それらの研究の限界は何かを発見する。</p> <p>【学習の内容】1. Family Contacts in Korea and Japan from a comparative perspective をレビューする。特に、既婚の子どもの親と義理親との Contacts の規定要因を発見する。 2. Pattern of Adult Child-Parents Contact をレビューする。特に、Contact の Pattern を発見し、本研究の問題点を探る。 3. Financial Supports to Parents and Parents-in-law をレビューする。特に、日韓中において既婚子の親と義理親への Financial Supports がバランス型であるかどうかを確認し、その理由とは何かを考える。</p> <p>【キーワード】Contacts, Parents and Parents-in-law, Pattern of Financial Supports</p> <p>【学習の課題】学習の内容の1～3について、問題点を発見しながらそれぞれの内容について研究を深める。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】家族を取り巻く環境が変容する中で、成人子の親と義理親へのサポートは、どうあるべきかについて先行研究を多読する必要がある。</p>